

さと やま し むら  
里山の自然

# 田んぼの1年

瀬長 剛



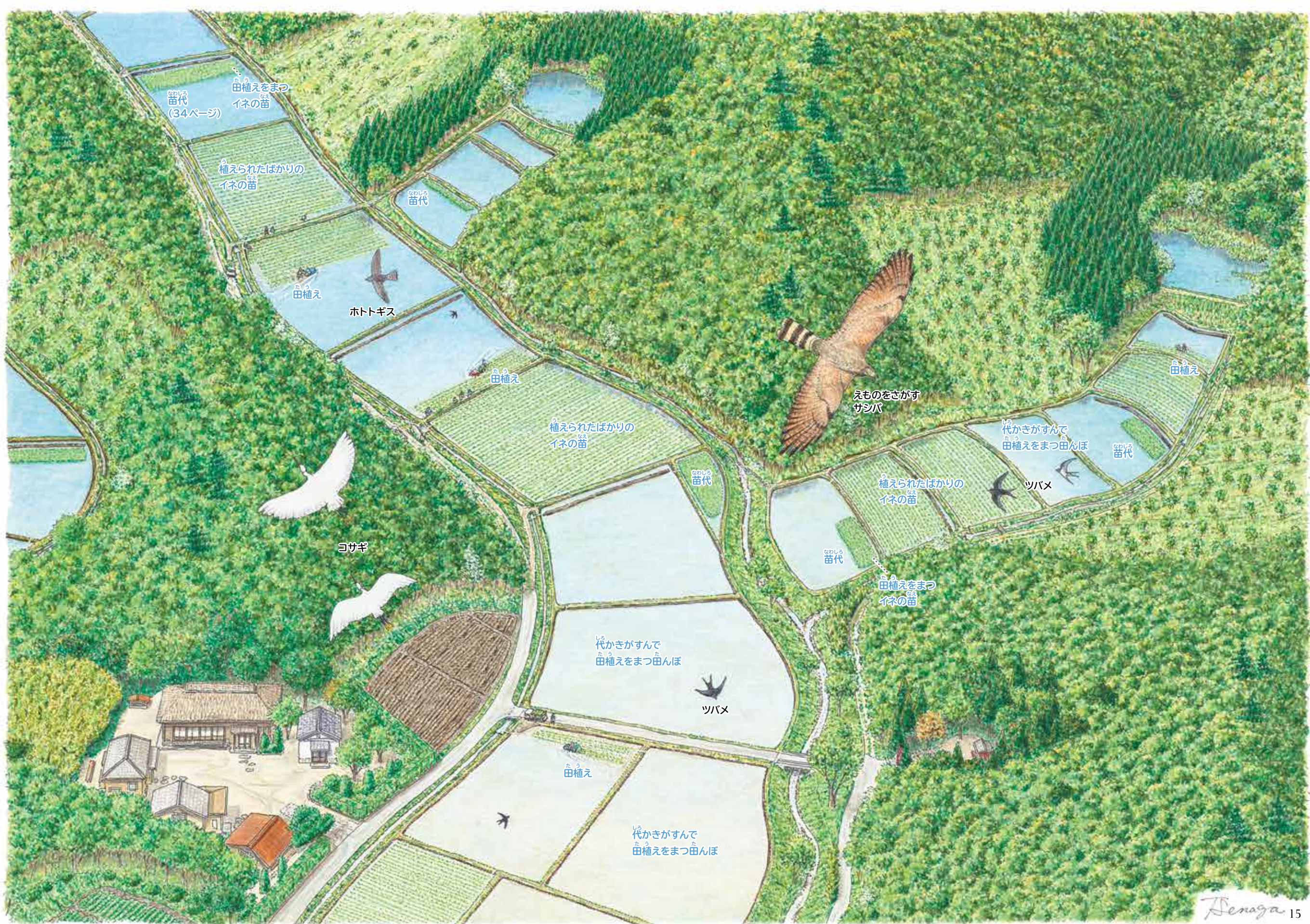
# 初夏

雑木林の緑が、こなくなってきました。  
田んぼの水が光りかがやき、  
景色をさかさまに映しています。  
そよ風が水のにおいを運び、  
ツバメが水面すれすれに飛びかっています。  
南の国から、サシバがもどってきました。  
ホトトギスもどり、  
谷戸じゅうを飛びまわって鳴き、  
夏のはじまりを告げています。  
いよいよ田植えがはじまりました。



## ホトトギス

カッコウのなかまで夏鳥。田植えのころに現れて、「テッペンカケタカ」「トッキョキョカキョク」などと聞こえる大きな声で鳴く。「田植え鳥」「早苗鳥」などともよばれる。



田植えがすんだ田んぼには、生きものがいっぱい。

おっ! ドジョウだ。



ドジョウ

ウキクサ

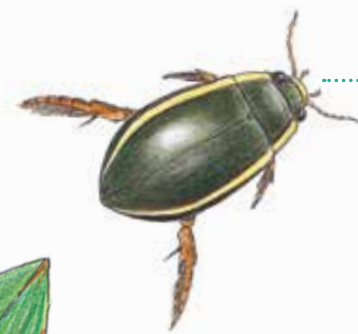
**ヒルムシロ**

田んぼやため池、水路に群生する水生植物で多年草。葉の形を水深によって変化させ、水をぬいた田んぼでも生長する、やっかいな雑草。



**コオムシ**

中型の水生カメムシ。オスが卵を背負って守る。肉食で、ほかの昆虫やオタマジャクシなどを捕らえて食べる。田んぼの水がなくなるころ、ため池などに飛んで移動する。



**ゲンゴロウ**

ゲンゴロウ類の最大種。オタマジャクシなどを食べる。水生植物の茎内に産卵する。幼虫は水中で育ち、畦の土の中で蛹になる。



アマガエルのオタマジャクシ

こっちはゲンゴロウがいるぞ。



トビ

ツバメ

メスを追う  
モンシロチョウのオス

アオスジアゲハ

ハルジオン

イネ

ツバメ

イネ

モンシロチョウのオス

アサミ

アサミ

そっちに行ったぞ。

**ガムシ**

ゲンゴロウに似ている。成虫はおもに水生植物を食べ、幼虫は巻き貝を食べる。あわに包まれた卵は水面に浮く。畦の土の中で蛹になる。田んぼの水がなくなるころ、ため池などに飛んで移動する。



ヤマアカガエルのオタマジャクシ



**デンジソウ**

水生のシダ植物。水面に浮かんだ葉の形が漢字の「田」に似ているのでこの名がある。浅い水路や湿地に群生し、田んぼの中に入ると、やっかいな雑草。

メダカ



速い。かくれた。どこに行った?

# 田んぼの仕事

この本でえがいている、少し昔の田んぼの1年の仕事を紹介します。地域によって、仕事をする時期や方法、よび方は少しずつちがっていました。谷戸につくられた棚田や、小さな田んぼには機械を入れないので、昔も今も、すべての仕事を手作業でおこなっています。

※各ページの絵の中にも、いろいろな仕事をする人が出てきます。水色の文字で仕事の内容をしめています。

**【レンゲ】** 春に、こいピンクの花が咲く。肥料にするために、田起こしのときに土中にすきこむ。稲刈り前に種をまく。

**【かかし】** 畑に立てる人形。人がいるように見せかけて、鳥やイノシシなどが実ったイネや畑の作物を食べにこないようにする。

**【二番穂】** 稲刈りをしたあとに切り株から出るイネの穂。

**【稲わら】** 脱穀したあとのイネの茎や葉を稲わらという。家の屋根に使ったり、編んでわらじをつくらったり、馬や牛など家畜のえさにしたりする。燃やした灰を肥料として使うこともある。

**【わら塚】** 稲わらを積んだ塚。くさらないように保存するためのもの。

**【もみ】** イネの実のこと。かたい皮に包まれているので、そのままでは食べられない。一つぶの種もみから、1000~2000つぶ(お茶わん一杯分の炊いたご飯の量)のもみが収穫される。

**【谷戸】** 丘陵地にある谷間のこと。谷津、谷地ともいう。

## 4 田植え (p.14~17)

種もみ(イネの種)をまとめてまいて、苗を育てる場所。同じ時期にイネが実るように、苗の大きさをそろえて田んぼに植えかえる。昔は田んぼの一部や小さな田んぼが使われていたが、今は温室でおこなわれている。

**種もみ**  
種としてまくため、食用にせず保存されていたもみ。

**芽と根が出た種もみ**  
質のよい種もみを選んで消毒し、水につけて発芽させてから苗代にまく。

## 5 生長 (p.22~23)

苗代で育てた小さな苗を数本ずつまとめて、田んぼに植える作業。苗と苗のあいだが同じになるように1列に植えていく。

手作業による田植え



田植え機による田植え



## 6 中干し・出穂 (p.28~29)

お米をたくさんつくるためには、イネの育ち具合や気温などによって水の深さを変える必要がある。気温が低いときには水を入れて深くしたり、根を伸ばすために水をぬいたりする。田んぼと用水路をつなぐ細いみぞにある水門や、ため池のせんを開いたり閉じたりして、水の量を調整する。

## 7 落水・稲刈り (p.36~41)

イネの生長にともない、株の外側に向かってつぎつぎと新しい茎ができることを「分げつ」という。分げつして株が太ると、多くの穂が付き、たくさんお米がとれる。



イネの穂



イネのひとつの花

## 8 はざがけ (p.37, 40~41)

実ったイネの穂を乾かし、稲刈りをしやすくするために田んぼの水をぬくことを「落水」という。落水のあと、歩きやすくなった田んぼで稲刈りをおこなう。手作業や稲刈り機で、イネの根元近くを刈り取る。

かまを使った稲刈り



稲刈り機による稲刈り



## 1 水路そうじ (p.8~9)

用水路の水がむだなく流れるように、たまった土砂や落ち葉を取りのぞく。同時に、こわれた部分をなおす。

## 2 田起こし・畦ぬり (p.4~5, 10~11)

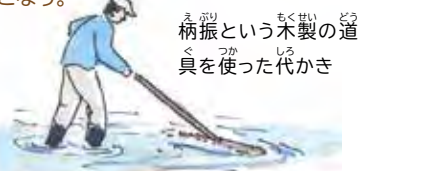
田起こしは、田んぼの土を掘り起こし、かたくなった土を細かくかく作業。畦など田んぼを囲んでいる壁にどろをぬりつけて、田んぼの水がもれないようにする畦ぬりも、ほぼ同時におこなう。



耕運機(土をすき返してかく機械)による田起こし

## 3 水入れ・代かき (p.12~13)

ため池のせんをあけたり、用水路の水門をあけたりして、田んぼに水を引き入れる。田んぼに水が入ったら、田植えがしやすいように土と水を混ぜ、表面を平らにする代かきをおこなう。



## 草取り (p.22)

イネに必要な栄養をうばわれないように、田んぼの中の雑草を根ごと引きぬく。



## 草刈り (p.9, 22, 28, 32)

畦や土手が害虫のすみかになることを防ぎ、田んぼの仕事をしやすくするために草だけを短くする。刈りくずは肥料にする。

## 田んぼの見回り (p.20)

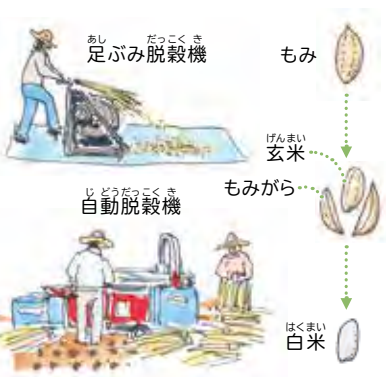
毎日、田んぼを見回り、水の出し入れや肥料をまく時期、草取りや草刈りをおこなう時期を決める。イネの株が枯れるもち病などの病気や、害虫による被害が見つかったときには、農薬を使うこともある。

## 8 はざがけ (p.37, 40~41)

竹や細い木を組んでつくったはざに、刈りとって束にしたイネをかけて、稲穂を乾燥させる。

## 脱穀・もみすり・精米

乾燥させた稲穂からもみを落とすことを「脱穀」という。もみのかたい皮(もみがら)を取りのぞく「もみすり」をする。もみすりのあと、玄米の表面をおおっている「ぬか」をけずり取る「精米」をすると、おいしい白米ができる。



# らくすい いねか 落水・稲刈り

稲刈りに向けて、田んぼの水を完全にぬくことを「落水」といいます。水がない田んぼで、黄金色の稲穂がうなだれています。

稲刈りがはじまると、かくれていたカエルが逃げまどい、イナゴやコオロギがはねまわります。カマキリやクモもとびだしてきました。小さな虫を追う赤トンボのはねが、きらめいています。カエルや虫を食べに、鳥も集まってきます。

雑草は、ふみつけられたり切られたりして、傷だらけになります。それでも、オモダカやコナギ、カヤツリグサのなかまなどは、花を咲かせたり、新しい芽を出したりしています。



コメゲヤツリ

カヤツリグサのなかまの一年草。湿地や田んぼのまわりに生える。このなかまは繁殖力が強く、田んぼに入ってくるとやっかいな雑草になる。農薬（除草剤）をまくこともあるが、そうすると水草やほかの生きものまで殺してしまう。



実が熟したイネ

アキアカネ

つながって飛ぶ  
アキアカネ（前がオス）

ミヤマアカネ

イチモンジセセリ

ナガコガネグモの巣（網）

イチモンジセセリ

ハネナガイナゴ

飛びながら交尾をする  
アキアカネ（上がオス）

コサギ

モンキアゲハ

クロアゲハ

アカタテハ

スズメの群れ

オオバコの花...

イヌタデ...

スズメノカタビラ...

がかし

稲刈り

オオカマキリの  
メス

セスジアカムネグモ

オモダカ  
の枯れ葉

コバネイナゴ

枯れはじめた  
コナギ

ホシクサ...

刈られて  
束ねられたイネ

イボクサ

ウリカワの実

枯れはじめた  
ミズアオイ

アマガエルの子

ハラヒシバツタ

トウキョウ  
ダルマガエルの子

ハナグモのメス

ツマグロヨコバイの  
オス

アゼムシロ...

ホシクサ

エンマコオロギの  
オス

ヤチスズ

チガヤ

枯れはじめた  
タカサブロウ

スズメノテッポウの芽

# 田んぼの生きもの図鑑

※里山の田んぼの生きもの名前を五十音順にならべて、この本に出てくるページを示し、かんたんな説明をつけてあります。ページが書かれていない生きものは本編にえがかれていない種類です。

## ア

**アオクサカメムシ** …………… 31  
野原や田畑に生息するカメムシ。独特なくさいにおいを放つ。春から秋に見られ、ウリ類やマメ類、稲穂などの汁を吸う農作物の害虫。

**アオサギ** …………… 25,45  
大型のサギで留鳥。田んぼやため池、用水路などで魚やザリガニ、カエルなどを捕らえて食べる。田植えしたばかりのイネの苗を、ふみつけることがある。

**アオスジアゲハ** …………… 19  
年に数回現れ、春から秋まで見られるアゲハチョウ。林縁や野原を活発に飛びまわり、花によく来る。

**アオミドロ類** …………… 23,31  
浅くて栄養豊富な池や沼などに発生する、糸状の藻類。田んぼで大量に発生すると、水温を下させたり、養分をうばったりして、イネに害をあたえる。

**アカタテハ** …………… 38,41  
中型のタテハチョウ。年に数回現れ、花や熟した果実などに来る。成虫で冬を越し、冬でも暖かい日には日光浴をしている姿が見られる。

**アカツメクサ**  
ヨーロッパ原産のマメのなかまの多年草。牧草として移入されたものが野生化し、田んぼの畦などに生えている。春から秋まで咲く花には、チョウやハチが飛んでくる。ムラサキツメクサともいう。

**アカムシ**  
カに似たユスリカ類の幼虫をアカムシとよぶ。水中で生活し、どろをふくろく状にした巣



をつくる。メダカやフナ、ヤゴなどの食べ物になる。  
**アキアカネ** …… 17,36,37,38,39,41,42,43,45  
田んぼで発生する赤トンボの代表。田んぼに水を入れるころに幼虫（ヤゴ）が化し、中干しの前に羽化する。成虫は、夏をすずしい山地ですごす。秋に田んぼにもどって、稲刈り後の田んぼの水たまりなどに産卵する。ウンカ類やツマグロヨコバイなど、イネの害虫を好んで食べる。

**アジアイトトンボ** …………… 17  
イトトンボのなかま。田んぼや、水生植物が多い池などにすむ。成虫は春から秋に見られ、草のあいだをゆっくりと飛ぶ。未成熟のメスはオレンジ色。

**アゼガヤツリ**  
カヤツリグサのなかまの一年草。田んぼの中や湿地、畦などに生える。種子による繁殖力が強く、田んぼのやっかいな雑草。  
**アゼ** …… 24  
畦で育てられるダイズのこと。ダイズは水分を好み、肥料がなくても育つので、畦によく植えられていた。根が張るので、畦がくずれのを防ぐためにも役立つ。

**アゼムシロ** …………… 7,16,22,26,28,30,39,45  
湿地や畦に生える多年草。むしろのように地面をおおうので、この名がある。ミゾカクシともいう。

**アブノメ**  
湿地や田んぼに生える一年草。葉が小さくてめだたず、茎しかないように見える。夏から秋に花が咲く。丸い果実がアブの目に似ているので、この名がある。

**アマガエル** …………… 17,18,22,24,26,27,29,31,32,39  
雑木林や農家の庭、やぶなどにすむ。春、産卵のために池や田んぼ、水たまりなどに集まる。卵は、ウキクサや枯れ葉、イネの株などについている。オスは、夜にグワッ・グワッ……と大きな声で鳴きつづける。ウンカやヨコバイなど、イネの害虫をよく食べるが、クモなど、益虫も食べる。

**アメリカザリガニ** …………… 9,29  
北アメリカ原産の外來種。どろが多い川、池や沼、田んぼなどに生息する。畦に穴をあけて水もれの

原因をつくったり、イネの根を切ったりするので、農家の人々からきらわれている。

**アメリカセンダングサ**  
北アメリカ原産の一年草。湿地を好み、田んぼの中にも生える。秋に花が咲く。実は「ひっつきむし」の代表で、動物の毛や人の衣服にくっついて運ばれる。

**アメンボ** …………… 9,13,17,32,33,41  
水面でくらすカメムシのなかま。春から秋まで見られる。水面に落ちた虫や、浮きあがった魚の死体などの体液を吸う。水がなくなると、飛んで移動する。

**イ** …………… 9,25,33,41,51  
湿地や池、沼、田んぼの畦などに生える多年草。円柱状の細長い茎が特徴。改良された品種のイグサは、たたみや、ござの素材として利用される。

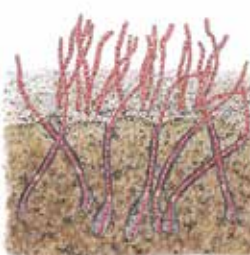
**イシガメ** …………… 28  
田んぼや池、沼、川に生息するカメ。水辺から遠くはなれた、雑木林や畑にも現れる。雑食性で、魚やザリガニ、イナゴなどのほか、畑のトマトなどの植物も食べる。田んぼの畦や畑の土手などに産卵する。

**イタチ** …………… 25,26  
小型で細長くすばいこい哺乳類。昼も夜も活動し、田んぼや池、沼などの水辺で見る事が多い。小鳥やネズミ、カエル、昆虫などを食べる。

**イチモンジセセリ** …………… 23,28,30,31,33,39,41  
セセリチョウのなかま。成虫は夏から秋に多い。幼虫は「イネツトムシ」とよばれるイネの害虫で、葉を数枚つづつた巢にひそみ、葉を食べる。

**イチョウウキゴケ** …………… 22,23  
田んぼや湿地の水面に浮かんでいたり、どろに張りついたりしているコケ。イチョウの葉に似ているのでこの名がある。

**イトミミズ**  
田んぼや下水溝など、水中で生活するミミズのなかま。群生し、どろに頭を入れて、水中



で尾をゆらゆら動かす。動植物の死体やふんなどの分解物を食べる。ドジョウやイモリなどが、好んで食べる。

**イスタデ** …………… 22,28,30,38,44  
野原や田んぼの畦などに生える一年草。繁殖力が強く、刈られても花を咲かせる。米つぶのような赤い花や実が赤飯に似ていることから、アカマンゴともよばれる。

**イヌホタルイ** …………… 22  
カヤツリグサのなかまの多年草。湿地や池、沼、田んぼに生える。種子から大量に発生する、田んぼの代表的な雑草。

**イネ** …………… 14~49  
熱帯生まれの作物で一年草。日本には、縄文時代後期（3500年前ごろ）に伝わった。湿地に生える植物のため、日本では、水を得やすい低い土地を田んぼにしてイネを育ててきた。田植えされた苗は伸びて太くなり、分けつし、田植え後60日くらいに出穂してめだたない花が咲く。おしべの花粉が同じ花の中のめしべにつく、自家受粉をおこなう。受粉すると、種子が育ちはじめる（米などの穀類やマメ類が実っていくことを登熟という）。出穂してから40日くらいで稲刈りができる。イネの種子であるおこめは日本人の食物の基本で、みそやしょうゆ、酒などの原料にもなる。稲わらは、しめ縄、ござやむしろ、牛や馬のえさ、肥料などに利用される。

**イノシシ** …………… 62  
大きなきばをもつ、大型の哺乳類。雑食性で、地中のタケノコや植物の根、ミミズ、カブトムシの幼虫などを、がんじょうな鼻先を使って、土を掘り起こして食べる。

**イボクサ** …………… 16,22,28,30,39,45  
湿地、池や沼のまわり、畦に生える一年草。畦から茎を伸ばして田んぼの中に入ることがあり、根を張って広がるやっかいな雑草となる。

**イモリ** …………… 13  
ゆるい流れの川や池にすむ両生類。産卵のために田んぼに入ってくる。子どもはオタマジャクシに似るがえらがめだつ。昆虫やミミズなどを食べる。

**ウキクサ** …………… 13,17,18,22,23,29,31  
水面上に浮かぶ多年草。葉のように見えるのは、浮きぶくろのように変形した茎で、葉状体とよばれる。



つぎつぎに新しい葉状体をつくって水面をおおう。  
**ウスイロササキリ** …………… 32,40,44  
初夏と秋に見られる小型のキリギリスのなかま。イネのなかまの雑草が多く生える、やや湿った草原に生息する。オスはシリシリシリ……と小さな声で鳴く。

**ウスバキトンボ** …………… 28,30,32,33  
南の国から飛んでくるトンボ。卵から成虫になることをくりかえして北上する。夏には日本じゅうの田んぼで見られるが、冬越しできずに死んでしまう。  
**ウツキクモリグモ** …………… 8  
メスが卵や幼虫を体につけて守るので、子守りグモという。春早くから活動し、地面を歩きまわってウンカなどを捕らえて食べる。

**ウマノアシガタ**  
日当たりのよい畦や土手などに群生する多年草。有毒。春に、光りかがやくような黄色い花を咲かせる。キンポウゲともよばれる。

**ウマビル**  
池や沼、田んぼに生息するヒル。タニシやモノアラガイなどの巻き貝を食べる。チスイビルとちがって、人の血を吸うことはない。

**ウリカワ** …………… 17,22,28,30,39  
おもに田んぼに生える多年草。白い花が美しいが、地下茎を伸ばして増える、田んぼの代表的な雑草。

**エノコログサ**  
イネのなかまの一年草。農地のまわりや道ばた、野原などに群生する。夏に刈られても秋には穂をつける、じょうぶな雑草。ネコジャラシともよばれる。

**エンマコオロギ** …………… 24,32,39,40  
土手や畦などに生息する、大型のコオロギ。夏の終わりから秋に、積んだ草刈りくずの中などから、コロコロコロリーーと鳴くオスの声が聞かれる。

**オオイヌノフグリ**  
ヨーロッパ原産の越年草。日当たりのよい場所を好み、草刈りの回数が多い土手や畦などに多い。地面を低くおおって群生し、早春に花を咲かせる。



**オオカマキリ** …………… 30,39,43  
日本のカマキリ類の最大種。林縁やススキ原などにすむ。田んぼにも入り、イナゴやイチモンジセセリなど、イネの害虫を捕らえて食べる。

**オオシオカラトンボ** …………… 24  
シオカラトンボに似ているが、はねのつけ根が黒い。春から秋に見られる。メスは、シオカラトンボのメスと同様に黄色と黒のしま模様。

**オオジシバリ** …… 6,7,10,12,16,22,28,45,48  
畦や湿った農道わきなどに群生する多年草。草たけが低いため、草刈りの回数が減ると、たけの高い草におおわれて、育たなくなってしまう。

**オオタカ** …………… 37  
ワシ・タカのなかまの留鳥。ネズミやウサギ、ハトやカモなどを捕らえて食べる。里山における食物連鎖の頂点の生きものの一。

**オオバコ** …………… 6,12,22,38,44,48  
畦や農道など、人にふまれることが多い場所に群生する多年草。種は、ぬれるとくつや車輪にくっついて運ばれるので、線状に生えていることが多い。

**オオムラサキ** …………… 22  
雑木林で見られる大型のタテハチョウ。クヌギなどの樹液を吸いに集まる。オスはなわばりを持ち、田んぼの上空でも、ほかのオスを追う姿が見られる。

**オオヨシキリ** …………… 62  
ウグイスのなかまの夏鳥。おもにヨシ原にすみ、休耕田が多くなると増える。ギョングョシギョシ……という大きな声で鳴く。

**オギ** …………… 63  
ススキに似た大型の多年草。乾いた場所に生えるススキとちがいで、湿った場所に多い。

**オグルマ**  
キクのなかまの多年草。湿地や田んぼの畦、用水路のわきなどに群生する。夏から秋にかけて、黄色い花を咲かせる。

**オヘイイチゴ**  
花がヘイイチゴに似た多年草。田んぼの畦や水路ざわなどに群生する。春に花が咲く。実は、ヘイイチゴのように赤くならず、茶色い。

